

欠席委員からのご意見

○ 村上委員

- ・事前放流については、取水口の位置によっては低水温放流となり、河川水温の急激な変化によって、生物へ大きな影響を及ぼす事例があるため要注意である。
- ・新たな洪水調節容量の確保では、副ダムを設けるなど既設ダムの流域で縦列の関係になるよう検討することで、環境への負荷が少なくなると考えられる。
- ・新たな洪水調節機能をもたせる場合、中小規模洪水のダイナミズムが再現できる操作等を考慮する事で、河川環境への影響が少なくできると考えられる。
- ・河道対策案では、礫の供給や移動の制限で河川本来の働きを減少させ、魚類などへの生息環境への影響が大きい。
- ・広島は真砂土が多い特徴を持っているが、アユ等のエサ場としては出水によって礫が埋没する可能性が高く、礫河床の維持に配慮が必要である。

○ 近森委員

- ・気候変動の対応を考えると、新たな公共投資としてみた場合、老朽化した既設ダムの不確実性よりは、環境対応を行ったうえで新しいダムがしっかり機能する事が、将来的な効果や柔軟性としてみても優位と思われる。
- ・折り込みチラシを活用した意見募集は若い世代からの意見がしやすい方法になると期待される。